

写真で見る

宮代の庚申塔

開催期間 平成 25 年 5 月 11 日(土)～7 月 7 日(日)



金原 遍照院

宮代町郷土資料館

〒345-0817 埼玉県南埼玉郡宮代町西原 289 番地

TEL 0480-34-8882 FAX 0480-32-5601

開館時間 9時30分～16時30分

開催期間中の休館日 月曜日

開催にあたって

道のかたわらや社寺などに行くと、昔の人々が様々な願いや思いを込めて建てた多くの石造物を見かけます。これらの中に、庚申塔と呼ばれる石造物があります。

庚申塔は、「庚申信仰」という平安時代から続く信仰により建てられたもので、ことに江戸時代になり庶民の間に広まりました。町内にもこのような庚申塔が110基余りあり、様々な形や大きさ、時期のものがあります。最も古いものは江戸時代前半の延宝4年(1676)のもので、新しいものは明治31年(1898)のものです。

こうした宮代町に残る庚申塔については、町史編さん事業の一環として行われた町史資料集の社寺総合調査の中に掲載されています。今回の展示では、その成果を基に一部追加調査等を行い、写真で紹介させていただきました。

本展示がこうした石造物にふれ、江戸時代から続く民間信仰の様子や歴史を知る機会となり、地域の新たな発見と理解、愛着につながれば幸いです。

平成 25 年 5 月
宮代町郷土資料館

凡例

1. 本書は、平成 25 年 5 月 11 日から 7 月 7 日まで開催される宮代町郷土資料館 平成 25 年度第 1 回企画展「写真で見る宮代の庚申塔」の展示図録です。
2. 展示の企画、図録の執筆、写真撮影、編集は当館学芸員青木秀雄が担当しました。なお、写真の一部は町史編さん等で用いたものを使用しています。
3. 庚申塔は、町史編さん事業で刊行した宮代町史資料 社寺総合調査Ⅰ～Ⅲ、Ⅴの調査結果を基本とし、追加調査等を行いまとめたものです。なお、再度確認した結果、一部内容等変えたところがあります。また、写真は展示スペースの関係で一部割愛しました。
4. 主な引用・参考文献
平野実 1976 「庚申信仰」
板橋区教育委員会 1977 「いたばし石造文化財―その一―」（『文化財シリーズ』第 24 集 郷土史料集）
菖蒲町教育委員会 1980 「菖蒲町の庚申塔」
小花波平六 1988 「庚申信仰」（『民衆宗教史叢書』 第 17 卷）
5. 企画展の開催にあたっては、下記の方々をはじめ多くの皆様にご指導、ご協力をいただきました。（順不同・敬称略） なお、このほか社寺総合調査で多くの皆様にご協力をいただきました。

遊佐町教育委員会 西光院 真蔵院 金剛寺 阿部秀雄 新井隆夫 伊草守 折原静佑 榊原一徳
島村一郎 関根文雄 堀川一枝 高橋良男 深井五左エ門

庚申塔とは

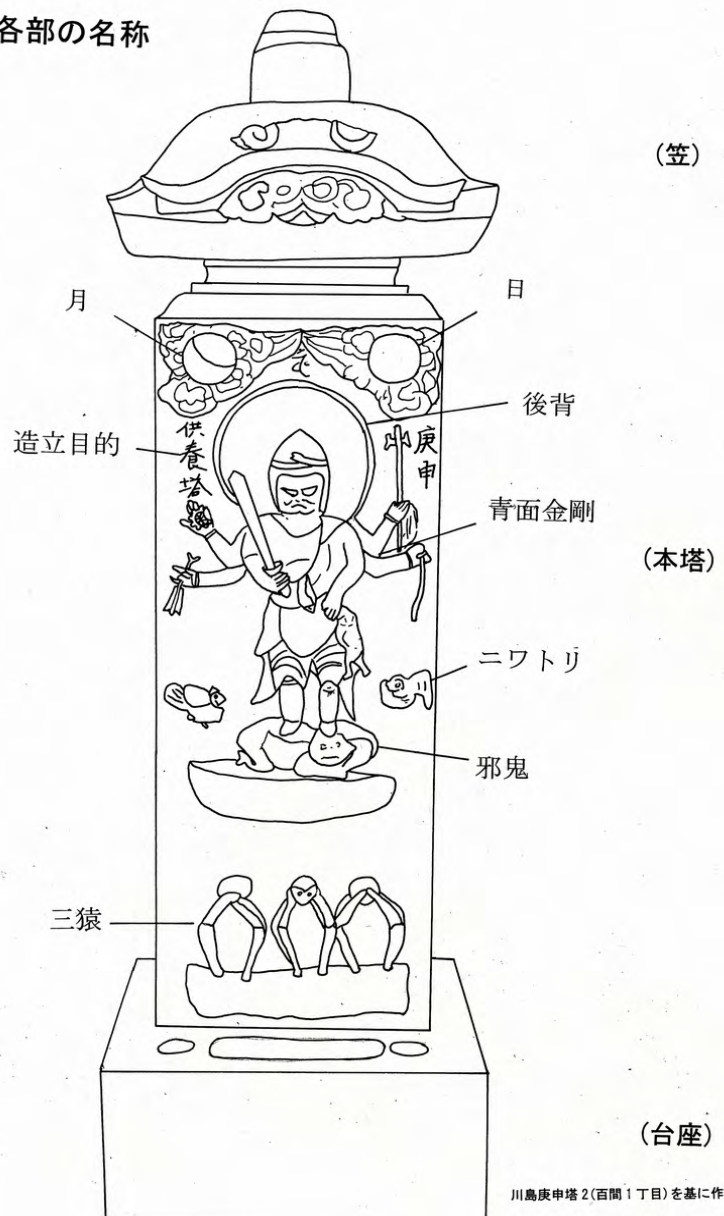
平安時代から続く庚申信仰により建てられたものです。庚申信仰とは「人間の身体には三匹の虫(三戸)がいて、これらの虫が庚申(こうしん)の日に人の寝ている間に体内から抜け出て、その人の罪過を天帝に告げて災いを及ぼすので、その晩は寝ないで過ごす」というものです。このため人々は庚申講という組織をつくり、一晩中語り明かしながら起きていました。これを「庚申待」といいます。

こうした信仰は、平安時代に貴族の間で始まり、鎌倉時代には武士も行うようになり、その後しだいに庶民の間に広まり、ことに江戸時代には、講中による石塔が各地で盛んに建てられました。

※庚申とは、十干の一つ^{かのえ}庚と十二支の一つ^{さる}申の組み合わせで60日に1回巡ってきます。



各部の名称

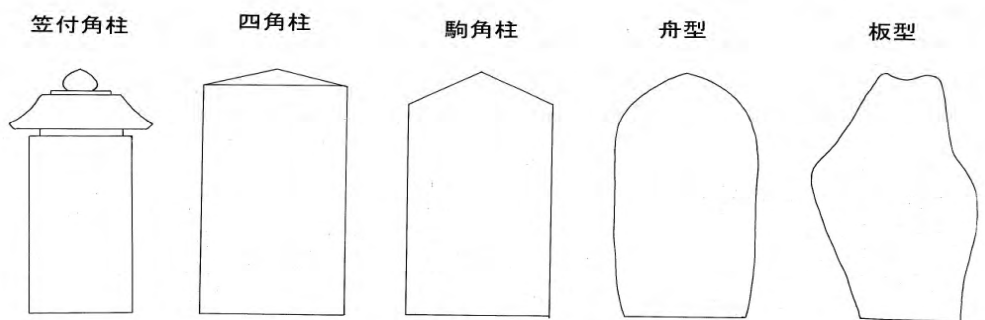


宮代町の庚申塔

宮代町内には、現在 117 基の庚申塔が確認されています。延宝 4 年(1676)を最古として最も新しいものは明治 31 年で、その多くは 9～11 月に建てられています。

庚申塔には、青面金剛像^{しょうめんこんごうぞう}を立体的に彫ったものや線刻で描いたもの(像塔)、「庚申塔」、「青面金剛」などと文字だけを刻んだ(文字塔)などがあります。また形も、笠付角柱^{かさつきかくちゅう}、駒角柱^{こまかくちゅう}、舟型、四角柱、板型に分けられます。大きさは 60cm 台のものから 180cm を測るものまであり、町内の各地域に建てられています。

庚申塔の形態



建てられた年代

最も古いものは、百間 6 丁目にある川島の庚申塔で、延宝 4 年(1676)の銘があるものです。高さ 128cm を測る舟型のもので 二臂(腕)^{にひ}の青面金剛像が彫られています。また、延宝 8 年(1680)のものが、弥勒院、金剛寺、真蔵院にあります。これらを含めて 1600 年代が 8 基、1700 年代前半が 15 基、同後半が 16 基、1800 年代前半が 70 基、同後半が 6 基、不明 2 基を数えます。

像塔は延宝 4 年(1676)から天保 15 年(1844)まであり、その後見られなくなります。「青面金剛」という文字のみが刻まれたものは、安永 5 年(1776)から明治 31 年(1898)まで見られます。「庚申塔」、「庚申」と刻まれた文字塔は、文化 3 年(1806)年を最古とし、安政 3 年 (1856)まであります。

大きさと形

身代神社に「百 庚申」^{ひゃくこうしん}と呼ばれる、60cm 台の小形の塔がまとまって建てられていることから、数的にはこの大きさが最も多くありますが、それを除くと 80～130cm のものが多く見られます。

像塔は、170cm 以上の大きなものは 3 基でいずれも笠付角柱のものです。駒角柱のものは 80～140cm 台まで 19 基、舟型は 110～130cm 台のもの 3 基、四角柱は 70cm～100cm 台まで 3 基、板型は 1 基で 110cm 台です。

文字塔は 75 基で、駒角柱が 80cm 台 1 基、他は四角柱で 60～100cm 台です。

一概に言えませんが、年代と大きさの関係をみると相対的に時代が新しくなるに従い小さくなる傾向がうかがえます。

青面金剛の持ち物

像塔に見られる青面金剛の持ち物は、戟、輪宝、絹索、
剣、弓、矢、斧など多彩です。持つ位置も全体として一
定の傾向はうかがえるものの、変化に富んでいます。



庚申塔に彫られたもの

日・月、^{にわとり}鶏、^{じゃき}邪鬼

日・月は、徹夜を象徴するものと言われており、そのほとんどは瑞雲に乗っています。63基に彫られています。右に日、左に月がくるものが57基とほとんどを占め、6基がその逆に彫られています。また、月も上や右左、斜めを向くなどさまざまです。

鶏は、夜明けを告げるとともに、庚申の夜が申の日から始まり酉の日に至るということで、猿とともに鶏を取り入れたとの説があります。35基に彫られており、右に^{おんどり}雄鶏、左に^{めんどり}雌鶏のあるものが34基を数え、その逆は1基です。



邪鬼は、39基に彫られています。ほとんどは1匹ですが、2匹のものが2基あります。向きも横向きが多く、正面向き1基、仰向けの像も1基あります。

三猿

町内の約半数の庚申塔には、本塔あるいは台石には三猿(見猿、聞か猿、言わ猿)が彫られています。

猿は古来より神聖な動物と考えられ、室町時代に信仰の厚かった山王社の使者をつとめました。この猿が庚申の申(さる)に通じ、描かれるようになったと言われています。

三猿の彫られた庚申塔は62基ありますが、その並び方をみると向かって右から順に「見猿、聞か猿、言わ猿」のパターンがほとんどで47基を数えます。

そのほかには、「言わ猿、聞か猿、見猿」7基、「言わ猿、見猿、聞か猿」2基などがあります。



刻まれた文字

庚申塔には、文字塔として「庚申塔」、「庚申」と刻まれるだけでなく、像塔にも正面や側面等にそうした文字が刻まれています。「奉造立庚申」、「奉拝庚申待」、「庚申供養塔」や「奉造庚申供養所同行」、「奉納庚申供養所願成就之所」などの文字が見られ、「庚申塚」と刻まれたものもあります。開眼導師等の僧侶と思われる名が見られるものも比較的多くあり、弥勒院の延宝8年(1680)の庚申塔には西光院第9世光箒の名が見られます。なお、この庚申塔には経文の中の一部を記した偈^げも刻まれています。このほかに、願い事や庚申塔の敷地代等について刻まれたものもあります。また、本塔や台石には、講中や村中、願主等の人たちの名が刻まれているものも多くあります。

主な庚申塔

みろくいん 弥勒院(中)の庚申塔



日、月を手に持つ



偈

延宝 8 年(1680)

延宝 8 年(1680)、安永 2 年(1773)に建てられた 2 基の庚申塔があり、いずれも像塔で笠付角柱のものです。延宝 8 年の庚申塔は、青面金剛の手に日、月を持ち、像の下に三尊の梵字が入り、さらに偈（「汝等所行 是菩薩道 漸漸修学 悉當成仏」出典：法華經 藥草喻品第 5）が刻まれているという、珍しいものです。

遍照院(金原)の庚申塔



宝永 2 年(1705)、寛政 7 年(1795)、天保 12 年(1841)、安政 3 年(1856)に建てられた 4 基の庚申塔(像塔 2 基、文字塔 2 基)があります。



宝永 2 年(1705)

逆井地区の庚申塔

逆井地区には、稲荷神社(2 基)や路傍(2 基)に 4 基の庚申塔があり、いずれも文字塔で「庚申塔」1 基、「青面金剛」3 基があります。なお、宝暦 10 年(1760)頃の百間村絵図(折原家文書)にある庚申塚は、地図の位置から享和元年(1801)の庚申塔が建っている場所と考えられます。



享和元年(1801)

ふじそね 藤曽根(姫宮)の庚申塔



祭礼の 幟 (平成 4 年 10 月 10 日)

享保 13 年(1728)、文政元年(1818)、天保 13 年(1842)に建てられた 3 基の庚申塔があります。藤曽根地区では、これらの庚申塔を祀る行事が今も続けられています。江戸時代からの貴重な行事です。

川島(百間 6 丁目)の庚申塔(町指定文化財)



写真左から、延宝 4 年(1676)、元禄 13 年(1700)、享保 19 年(1734)、明和 2 年(1765)、文化 10 年(1813)に建てられた 5 基の庚申塔があります。延宝 4 年の庚申塔は、宮代町最古のものです。

稲荷神社(道仏)の庚申塔



文化4年(1807)、天保15年(1844)の2基の庚申塔があります。文化4年の庚申塔は、四角柱の「庚申塔」と刻まれた文字塔です。台石に三猿が彫られており、また道しるべともなっています。天保15年の庚申塔は、板石に青面金剛像を線刻した塔としては町内唯一のものです。



線刻の青面金剛像 天保15年(1844)

身代神社(須賀)の庚申塔



寛政7年(1795)、文政10年(1827)、年号不詳のもの、あわせて50基の庚申塔があります。その内48基は大きさや形も全く同じもので、その中の1基に「戊^{つちのえ}申^{さる}四十七本建」とあることから同時期に造られたといわれる「百庚申」といわれるものです。「戊申」年に建てられた庚申塔群は、同様の1基も含めて文政10年(1827)の庚申塔の台石の名前等と比較し(47基のうち名前の刻まれた庚申塔は約10基あります)、同じ名前の出てくことや形態等から、本塔群が文化10年に近い戊申の年である嘉永元年(1848)に造られたものと推定されます。

金剛寺(須賀)と真蔵院(須賀)の庚申塔



金剛寺



真蔵院

金剛寺と真蔵院の庚申塔は、いずれも延宝8年(1680)に建てられたものです。

両所の庚申塔の青面金剛像の右手に「奉納庚申供養諸(所)願成就之所」とあり、左手には金剛寺が「建塔建幢福德無盡迎□□□遠為□界□」、真蔵院が「建塔建幢福德無盡迎作人奉遠為会界帝」とあり、金剛寺と全く同文と思われます。こうしたことから、ほとんど同時期に建てられたものと考えられます。

東条原鷲宮神社の庚申塔

貞享3年(1686)、元禄9年(1696)、安永5年(1776)、天保10年(1839)、文化8年(1811)に建てられた5基の庚申塔があります。

安永5年、文化8年の庚申塔には、塔を建てるにあたって地代を付けたことが刻まれています。文化8年の庚申塔の台石には妻、母という文字が見られ、女性の人たちにより建てられたものと考えられます。また、天保10年の庚申塔の右側面に「仁正寺春山謹書」と、また台石には杉戸の石工元吉の名が刻まれています。



西条原鷲宮神社の庚申塔



文化3年(1806)



元文5年(1740)

文化3年、元文5年の2基の庚申塔があります。文化3年の庚申塔の台石には講中27人の名が刻まれています。

西条原の路傍の庚申塔

安永5年(1776)の庚申塔は、「大青面金剛」と刻まれその左右に「天下泰平、国土安全」の文字が見られます。また、庚申塚と刻まれた唯一のものです。



和戸の路傍の庚申塔

天保13年(1842)の庚申塔の右側面には年号とともに「春山謙書」とあり、この春山は東条原鷲宮神社の天保10年の庚申塔と同じく「仁正寺春山」と思われます。

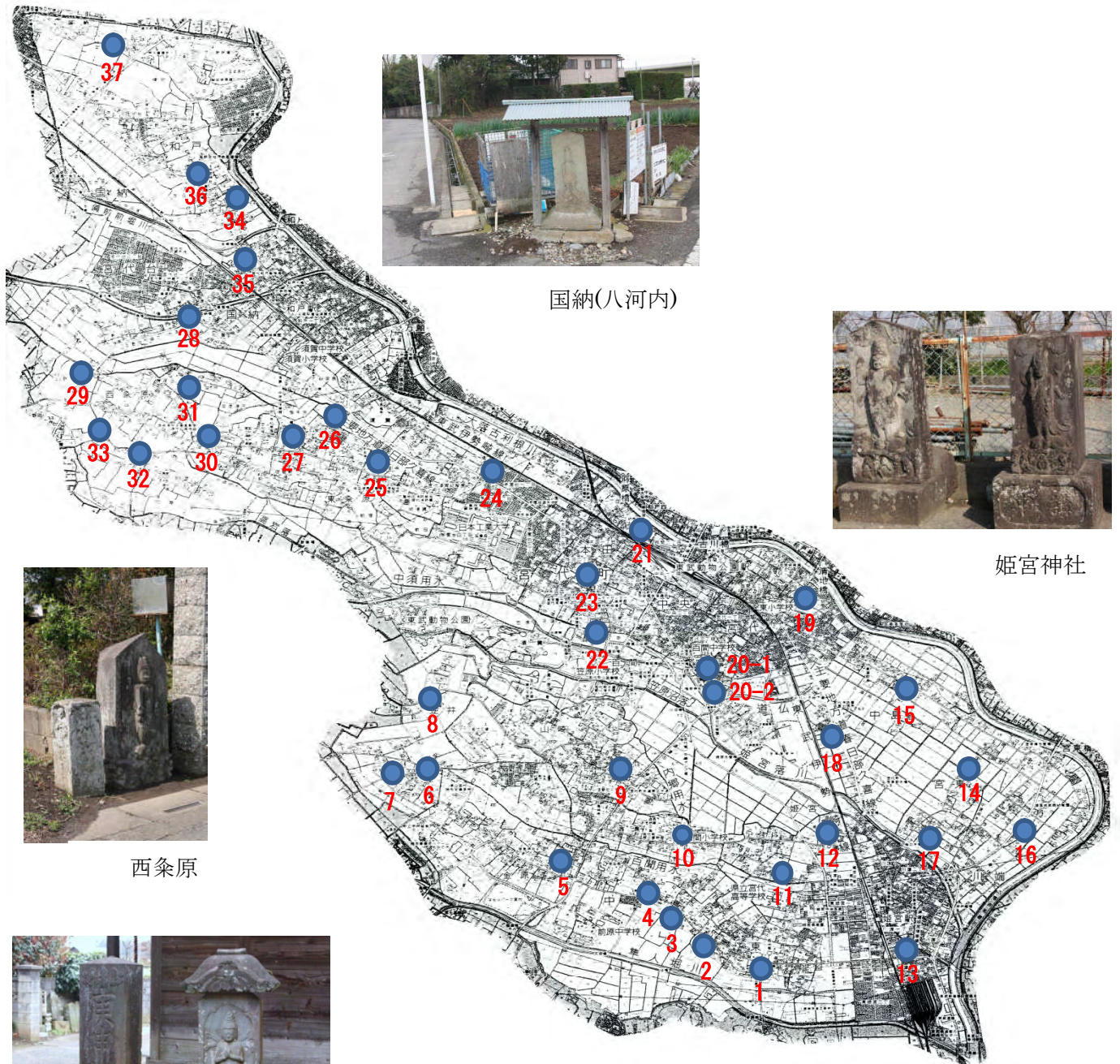


国納の路傍の庚申塔

寛政4年(1792)の庚申塔は青面金剛像の右側に「すぎと道」、左側に「さつて道」とあり、道しるべともなっています。左側面には「八河内村」と刻まれています。



庚申塔の分布



国納(八河内)



姫宮神社



西条原



地蔵院(西原)



西光院(東)



庚申神社(川端)

庚申塔一覽

No	枝番	所 在 地		造立年月日	(西曆)	形状	形態
1	1	東	西光院	延享 4 年 11 月吉日	1747	駒角柱	像塔
	2	東	西光院	文化 4 年 3 月吉日	1807	四角柱	像塔
	3	東	西光院	天保 10 年 10 月吉祥日	1839	四角柱	文字塔
	4	東	西光院	寛政元年 10 月吉日	1789	駒角柱	像塔
2	1	東	観音寺	享保 3 年 3 月吉日	1718	駒角柱	像塔
	2	東	観音寺	安永 4 年 11 月吉日	1775	笠付角柱	像塔
	3	東	観音寺	天保 14 年 3 月 6 日	1843	四角柱	文字塔
3	1	中	弥勒院	安永 2 年 2 月吉日	1773	笠付角柱	像塔
	2	中	弥勒院	延宝 8 年正月 29 日	1680	笠付角柱	像塔
4	1	中	神外坊	元文 5 年 10 月吉日	1740	駒角柱	像塔
5	1	金原	遍照院	寛政 7 年 8 月	1795	駒角柱	像塔
	2	金原	遍照院	安政 3 年中咏 (2 月)	1856	四角柱	文字塔
	3	金原	遍照院	天保 12 年正月	1841	四角柱	文字塔
	4	金原	遍照院	宝永 2 年 10 月 18 日	1705	笠付角柱	像塔
6	1	逆井	逆井	享和元年 11 月吉日	1801	四角柱	文字塔
7	1	逆井	稻荷神社	安政 3 年 11 月吉日	1856	四角柱	文字塔
	2	逆井	稻荷神社	申 10 月吉日		駒角柱	文字塔
8	1	逆井	平島	寛政 2 年 4 月吉日	1790	四角柱	文字塔
9	1	山崎(宿)	松永庵	宝暦 2 年 2 月 28 日	1752	駒角柱	像塔
10	1	西原	地藏院	享保 17 年 12 月吉日	1732	笠付角柱	像塔
	2	西原	地藏院	文政 3 年 10 月吉日	1820	四角柱	文字塔
11	1	姫宮	藤曾根	文政元年 9 月	1818	四角柱	文字塔
	2	姫宮	藤曾根	享保 13 年 12 月	1728	駒角柱	像塔
	3	姫宮	藤曾根	天保 13 年 9 月	1842	四角柱	文字塔
12	1	姫宮	姫宮神社	文化 4 年 11 月吉日	1807	四角柱	像塔
	2	姫宮	姫宮神社	享保 17 年 10 月 20 日	1732	駒角柱	像塔
13	1	川端	庚申神社	寛政 9 年 8 月吉祥日	1797	四角柱	文字塔
	2	川端	庚申神社	嘉永 3 年 9 月吉日	1850	四角柱	文字塔
14	1	宮東	正福坊	天保 8 年 11 月吉祥日	1837	四角柱	文字塔
	2	宮東	正福坊	延享元年 9 月吉日	1744	駒角柱	像塔
15	1	中島	若宮八幡神社	文化 3 年 11 月吉日	1806	四角柱	文字塔
	2	中島	若宮八幡神社	文政 12 年 6 月吉祥日	1829	四角柱	像塔
	3	中島	若宮八幡神社	宝永 4 年 11 月日	1707	駒角柱	像塔
	4	中島	若宮八幡神社	安政 2 年 9 月吉祥日	1855	四角柱	文字塔
16	1	宮東	松木島	享保 15 年霜月吉日	1730	駒角柱	像塔
17	2	宮東	浄林寺	享保 9 年 8 月 29 日	1724	駒角柱	像塔
18	1	中島	薬師堂	嘉永 3 年 11 月吉日	1850	四角柱	文字塔
	2	中島	薬師堂	寛政 5 年 9 月吉日	1793	駒角柱	像塔
19	1	百間 6 丁目	川島	延宝 4 年 10 月吉日	1676	舟型	像塔
	2	百間 6 丁目	川島	元禄 13 年 10 月吉日	1700	笠付角柱	像塔
	3	百間 6 丁目	川島	享保 19 年 10 月吉日	1734	笠付角柱	像塔
	4	百間 6 丁目	川島	明和 2 年 10 月吉日	1765	笠付角柱	像塔
	5	百間 6 丁目	川島	文化 10 年 4 月吉日	1813	笠付角柱	像塔
20-①	1	宮代 2 丁目		元禄 2 年 9 月 27 日	1689	笠付角柱	像塔

20-②	1	道仏	稲荷神社	文化4年6月吉日	1807	四角柱	文字塔
	2	道仏	稲荷神社	天保15年9月吉日	1844	片岩	図塔
21	1	百間1丁目		明治31年12月	1898	四角柱	文字塔
22	1	本田(蓮谷)	稲荷神社	宝暦6年11月吉日	1756	駒角柱	像塔
23	1	本田	安養庵	安永5年10月吉日	1776	笠付角柱	像塔
24	1	須賀	身代神社	文政10年9月吉日	1827	四角柱	文字塔
	2	須賀	身代神社	寛政7年11月吉祥日	1795	笠付角柱	像塔
	3~49	須賀	身代神社			四角柱	文字塔
	50	須賀	身代神社	戊申(戊申47本建)		四角柱	文字塔
25	1	須賀	金剛寺	延宝8年□月吉祥日	1680	駒角柱	像塔
26	1	須賀	真蔵院	延宝8年2月吉祥日	1680	駒角柱	像塔
27	1	東条原	鷲宮神社	元禄9年正月吉日	1696	駒角柱	像塔
	2	東条原	鷲宮神社	貞享3年3月6日	1686	舟型	像塔
	3	東条原	鷲宮神社	安永5年3月庚申	1776	駒角柱	像塔
	4	東条原	鷲宮神社	天保10年11月吉日	1839	四角柱	文字塔
	5	東条原	鷲宮神社	文化8年3月庚申	1811	四角柱	文字塔
28	1	国納		(不詳)		舟型	像塔
29	1	西条原	鷲宮神社	文化3年10月吉日	1806	四角柱	文字塔
	2	西条原	鷲宮神社	元文5年10月吉日	1740	駒角柱	像塔
30	1	西条原		宝暦4年10月15日	1754	駒角柱	像塔
31	1	西条原		文政7年3月吉祥日	1824	四角柱	文字塔
32	1	西条原		延享4年11月吉日	1747	駒角柱	像塔
33	1	西条原		安永5年正月	1776	四角柱	文字塔
34	1	和戸	西方院	元禄9年9月吉日	1696	駒角柱	像塔
35	1	和戸2丁目		天保13年3月	1842	四角柱	文字塔
36	1	和戸		文化13年	1816	四角柱	文字塔
37	1	国納		寛政4年9月吉日	1792	駒角柱	像塔

※宮代町史資料 社寺総合調査Ⅰ～Ⅲ、Ⅴ の調査結果を基本とし、追加調査等を行いまとめた。

身代神社の同じ形態の庚申塔については、紙面の関係で3～49としてまとめた。



川島の庚申塔群(昭和40年代)